

「第12回景観まちづくり賞」総評

今回で12回目を迎える景観まちづくり賞ですが、「まちなみ建築部門」では8点の応募作（共同住宅3件のほか、戸建て開発、福祉施設、保育園、事務所、寺院 各1件）から1点を選出し、またコロナウィルスの影響下にも関わらず5件の応募があった「まちづくり活動部門」からは2点を選出しました。

「まちなみ建築部門」においては、優れた景観の重要ポイントとして、建物自体の形状や色彩以外に、周囲のオープンスペースや植栽部分の作り方、地域への貢献要素の質などが求められますが、今回の受賞作「オーベルグランディオ平井」は、容積率を抑えることによって生まれた周囲の開放感と、そこに盛り込まれた近隣への豊かな貢献内容が特色と言えます。

市街地再開発事業区域における特定建築者募集による条件付土地に建てられた共同住宅で、防災上有効な約2,000㎡の環境空地のほか、かまどベンチやパーゴラ、遊具の設置などが大きな貢献要素となっています。

なお、広大な駐車場中央部への高木植樹や、敷地西端部における南北通り抜け路の設置などが加われば、貢献度はさらに高まると考えられます。

つぎに「まちづくり活動部門」の受賞活動ですが、

「篠田堀親水緑道を愛する会」は、約28年間にわたる親水緑道の清掃活動を通して江戸川らしさを象徴する景観の保全に努め、町会・自治会、学校、企業など周辺地域との一体的な活動推進によって、江戸川区が誇る地域力の醸成に大きく寄与されました。特に、周年行事にともなう魚の放流や自然学習会など、子どもたちが親水緑道に親しめる催しを行ってきた点も大きな業績です。

「小岩コンテンツプロジェクト」は、小岩の街を活性化するための活動として、YoutubeチャンネルやSNSを通じての情報発信、冊子「ラブユー小岩レトロ」の発刊、「小岩グルメ・フォトコンテスト」や「小岩レトロ・フォトコンテスト」などのイベント開催を通して、地域の魅力発信と発掘を試みています。これら自発的な広報活動が「小岩らしさとは何か」について考えるきっかけを生み、今後はさらに若年層を取り込みながら「小岩の今昔」を繋ぐ活動として成長していくことが期待できます。

今後もぜひ、様々な形の景観まちづくりを通して江戸川区らしさがさらに生まれ、地域活性化や街並み形成のための取組みが展開されることを期待したいと思います。